



除草剤を減らした大豆作り



大豆をはじめ作物を育てるには、雑草を抑えないと満足な収量が望めません。一般的には除草剤を散布して雑草を抑えますが、環境への薬剤の影響を少なくするため除草剤の使用量を減らすことが求められています。

◆除草作業が重要な大豆作り

大豆作りで最も大きな問題の一つが雑草で、特に大豆が小さいうちは雑草に負けてしまいがちです。雑草を抑えるため、畝の間を耕して雑草を埋め込んだり、手で雑草を取り除いたりしますが、たいへんな労力がかかります。そこで、大豆と一緒に麦などを植え、あらかじめ土の表面を覆うこ



とで雑草を生えなくさせる技術の開発が進められてきました。

◆麦の力を借りて大豆の雑草を抑える技術

新しく開発された技術は、市販の種まき機に新たに部品を取り付けることで、畝を作りながら大豆の両脇に麦



を同時にまくというものです。大豆と麦を初夏にまくと、麦が大豆のすき間の土の表面を覆うことで、雑草が生えるのを防ぎます。麦は本来、冬作物（秋に種をまいて育てる作物）なので、大豆が大きくなる夏には、夏の暑さに負けて穂が出ることなく枯れます。枯れた後も、ワラを敷いたようになって雑草が生えて来るのを防ぎます。

今回開発された方法では、除草剤や除草のための管理作業を減らすことができ、麦が大豆の成長を邪魔することもありません。近年、農家1軒当たりの大豆の栽培面積が大きくなってきており、除草作業にはこれまで以上に労力がかけられないことから、今回の技術は大豆栽培の労力削減にも貢献することが期待されます。